

「重点研究・教育」助成事業成果報告書

研究課題名	地域定着のためのキャリア形成支援とキャリア教育策の構築に関する基礎研究	
研究期間	2019年度～ 2021年度	
研究組織		
研究者名	所属	分担研究項目
(研究代表者) 川村 道子	宮崎県立看護大学	研究全体の統括及び県内就職内定者及び卒業生に対してのインタビューとその解析
(研究分担者) 小野 美奈子	宮崎県立看護大学	キャリア形成支援とキャリア教育を充実するための検討
田中 美智子	宮崎県立看護大学	キャリア形成支援とキャリア教育を充実するための検討
中村 千穂子	宮崎県立看護大学	社会人基礎力を含めたキャリア形成支援とキャリア教育策の検討と尺度を用いた調査とその解析
壹岐 さより	宮崎県立看護大学	県内就職内定者及び卒業生に対してのインタビューとその解析
大野 理恵	宮崎県立看護大学	社会人基礎力を含めたキャリア形成支援とキャリア教育策の検討と尺度を用いた調査とその解析
岡崎 実子	宮崎県立看護大学 (現 沖縄県立看護大学)	社会人基礎力を含めたキャリア形成支援とキャリア教育策の検討と尺度を用いた調査とその解析

研究成果の報告

研究1：地域定着のためのキャリア形成支援とキャリア教育策の構築に関する基礎研究～社会人基礎力育成のために～

【研究目的】

学生が社会に出て働き続けるために、困難に直面しても折れない心で、乗り越えることができる力や社会人基礎力を身につけることを支援する目的で本研究を行った。

【研究方法】

対象

研究対象は研究内容に同意が得られた宮崎県立看護大学学生で各学年よりリクルートした。

実施手順

参加協力の得られた学生に、ストレスマネジメント、コミュニケーションもしくはストレス対処のためのヨガ講座に参加してもらい、各講座前後の学生の状況を調査した。ストレスマネジメント及びコミュニケーション講座の内容については、90分とし、ヨガに関しては60分とした。それぞれの講座は1回のみ開催を原則とした。

講座の具体的内容は以下の通りであった。

ストレスマネジメント講座：ストレスとは、自分のストレスを知る。ストレスのきっかけを知るなど、コーピングとは、コーピングについて考えるなど。

コミュニケーション講座：アサーションとは何か、自己理解、自己受容、自尊心について理解し、自己信頼と自己表現について学ぶ。

ヨガ講座：ストレス対処の1つとしてのヨガ講座、身体のほぐし方や呼吸法など

測定項目

各講座前に、調査項目として、属性（氏名、学年など）、そのときの気分、気になっていることの有無と内容、ストレス反応尺度（SRS-18）、ストレスコーピング尺度、レジリエンス尺度（S-H式レジリエンス検査）、アサーション行動尺度の調査を行い、講座後に関しては、講座後の感想と各尺度の調査を行った。ただし、ヨガ講座に関しては、アサーション行動尺度の変化は認められないと考え、講座後のアサーション行動尺度は調査しなかった。

分析方法

講座受講前後の各尺度に関しては、平均値、中央値（最小-最大）で示した。SPSS ver24を用い、ノンパラメトリック検定のWilcoxonの順位和検定を行い、各尺度間の相関に関してはSpearman順位相関係数を求めた。有意水準5%で有意差ありとしたが、効果量についても算出し、効果の程度を「小」、「中」、「大」で示した。講座後の自由記述に関しては、テキストマイニングとして、KHcoder3を使用し、形態素解析を行い、語の抽出と頻出語を確認し、共起ネットワーク分析を行った。共起ネットワーク分析時にはJaccard係数0.2以上の場合を強い関連があると判断した。

【倫理的配慮】

掲示もしくは一斉メールにて講座参加者を募り、希望者に対して、研究の主旨と目的、自由意思で拒絶または参加の撤回ができること、プライバシー保護には注意すること等を口頭と書面で説明し、書面にて同意をえた学生を研究対象者とした。宮崎県立看護大学研究倫理審査委員会より承認を得て行った（承認番号01-18、2019）。

【結果】

参加状況

研究対象者はアサーション講座が18名（1年生8名、2年生1名、4年生9名）、ストレスマネジメント講座が7名（1年生4名、3年生1名、4年生2名）、ヨガ講座が11名（3年生4名、4年生7名）であった。上記の中で、アンケート調査の結果などがすべて揃っている対象はアサーション講座が12名（1年生4名、2年生1名、4年生7名）、ストレスマネジメント講座が3名（1年2名、4年

1名)、ヨガ講座が10名(3年生4名、4年生7名)であった。

講座前後の各尺度の変化

アサーション講座もしくは、ヨガ講座は単独で、ストレスマネジメント講座のみでは3名と対象者が少なかったため、アサーション講座にストレスマネジメント講座の対象者を加えて検討した。アサーション講座ではすべての尺度で前後の違いは認められなかったが、アサーション行動尺度の自己主張、他者尊重、ストレスコーピングの感情表出、SRS18の無気力の項目は効果量が中程度(0.319~0.399)で改善の方向であった。ヨガ講座ではSRS-18($p=0.021$)とレジリエンス尺度($p=0.032$)で講座後に有意な変化が認められ、SRS-18に関しては、不機嫌や無気力で効果量が中(0.763, 0.582)、抑うつ効果量は中(0.401)であった。レジリエンスでは社会性で講座後に上昇傾向($p=0.065$)が認められ、効果量は大(0.584)であった。アサーション講座とストレスマネジメント講座では、アサーション行動尺度の他者尊重が講座後に有意に高くなり($p=0.028$)、客観的自己統制は逆に低下する傾向($p=0.061$)が見られた。

各講座における講座後の尺度との関連

各講座での尺度に関して、アサーション講座では、講座後のアサーション行動尺度の得点は講座前のアサーション行動尺度やストレスコーピング尺度と強い正の相関($r=0.665, 0.773$)を示した。講座後のストレス反応尺度の得点は講座前のストレス反応尺度と正の相関($r=0.866$)があり、講座前のアサーション行動尺度やストレスコーピング尺度と負の相関($r=-0.670, -0.580$)が見られた。講座後のストレスコーピング尺度の得点は講座前後のアサーション行動尺度、講座前のストレスコーピング尺度と正の関係($r=0.501, 0.520, 0.503$)があることが示された。講座後のレジリエンス尺度の得点は講座前のレジリエンス尺度と正の強い相関($r=0.753$)が見られたが、他の尺度とは関係が認められなかった。アサーション講座とストレスマネジメント講座における各種尺度の相関関係はアサーション講座で見られたものと同様であった。ヨガ講座における各種尺度の相関については、講座後のストレス反応は講座前のストレス反応と正の相関があり、講座前のアサーション行動尺度、ストレスコーピング尺度、レジリエンス尺度と負の相関($r=-0.613, -0.620, -0.612$)がある傾向が見られ、講座後のレジリエンス尺度とは有意な強い負の相関($r=-0.748$)が見られた。講座後のストレスコーピング尺度は講座前のストレスコーピング尺度と強い正の相関があり、講座後のレジリエンス尺度は講座前のアサーション行動尺度とレジリエンス尺度と強い正の相関($r=1.000, 0.909$)があり、前後のストレス反応尺度とは強い負の相関($r=-0.717, -0.748$)が見られた。

自由記述の分析

アサーション講座、ストレスマネジメント講座及びヨガ講座に参加した後の自由記述の分析はすべてまとめて行い、分析対象の総抽出語数は511語、異なり語数は232語であった。抽出語の頻出単語は「思う」「自分」「伝える」「相手」「体」「ストレス」「コミュニケーション」「感じる」「気」「提案」であった。自由記述の共起ネットワーク分析の結果として、7つの部分に分類された。「」内の“”は抽出された語、下線は加筆した語句である。「コミュニケーションで“気”をつける“部分”を“考え”、“考える”ことの“難しさ”」「相手の“反応”が“大切”であることを“感じ”た“講座”」、「“相手”に“自分”の意見の“伝え”方について“思う”」」「“提案”する“内容”と自分の“気持ち”をうまく伝える」」「“学んだ”“コミュニケーション”について“活用”でき、“ストレス”に対する“考え方”が“少し”“学べ”た」」「“体”を動かすことは“楽しく”、“ヨガ”に“今後”も“参加”したい、“筋肉”を“使った”ことで“体”が“軽く”なった」などの内容が取り出せた。

【考察】

ストレス反応尺度は講座前にアサーション行動尺度やストレスコーピング尺度が高ければ、講座後のストレス反応尺度が低下することが考えられ、アサーション行動、もしくはストレスコーピングができるように支援することはストレス反応を軽減させることができる可能性が示された。

自由記述の分析からはコミュニケーション講座において、相手にどのように伝えるかについて考え、相手の反応を大切に自分の意見を伝えることについて考えていた。また、ヨガの講座では体を動かすことで、体の軽さを感じ、今後も実施したいことが記載されていた。

これらのことから考えると、学生の特性を把握しながら、講座の特徴を生かしたキャリア形成につながる学生支援が必要であることが示唆された。

研究2：地域定着のためのキャリア形成支援とキャリア教育策の構築に関する基礎研究～地域定着とキャリア選択～

【研究目的】

地域に根差した人材を育成するためにはどのようなものが必要であるかについて検討するとともに、県内就職率に関する課題を明確にする。

【研究方法】

[対象] 対象者は、4年次生及び卒業生とし、県内就職者20名、県外就職者10名（4年次生の場合は就職内定後とした）。地元志向やキャリア選択に関連する要因を探索するために、出身市町村の異なる対象、男女のバランスを考慮しながら選択した。

[研究方法] 就職先選びから決定までのプロセス、就職先を県内に決めた理由、今後の将来設計などについて半構造化面接を行った。面接では協力者の同意を得て録音を行った。録音内容を逐語録に起こし、Berelson, Bの内容分析法を用いて分析した。この内容分析法は、表現されたコミュニケーション内容を客観的、体系的、かつ数量的に記述する調査技法である。本研究は、学生が就職先を決める際の動機になること、将来設計について明らかにすることを目的として、言語的コミュニケーションの内容を分析対象とするため、ベレルソンの内容分析法が適していると考えた。またテキストマイニング（KH-coder）を用いてトライアングレーションを行い、分析の妥当性を確保した。

【倫理的配慮】

研究協力者に対して、研究の主旨と目的、自由意思で拒絶または参加の撤回ができること、プライバシー保護には注意すること等を口頭と書面で説明し、書面にて同意を得た学生を研究対象者とした。宮崎県立看護大学研究倫理審査委員会より承認を得て行った（承認番号01-19、2019）。

【結果】

県内就職者、県外就職者のインタビューの内容分析とKH-coderによる分析を照会して分析の妥当性を確認した。県内就職者11名、県外就職者10名を分析した時点で飽和を認めた。就職活動開始時期については、県内就職者が県外就職者よりやや早い、内定時期は県外就職者の方が2～3か月早かった。就職活動時期のおもな相談者については、県内就職者の場合、「家族への相談」「大学の先生、相談室の利用」「先輩に相談」の順で多かったが、県外就職者では、「自分自身の人脈を使う」「家族への相談」の順で多く、大学の相談員や教員を活用しない傾向がみられた。就職先選択理由では「福利厚生充実」や「手厚い新人看護師教育」「自己のキャリアプランの実現」というものが両者に共通で挙がっていたが、県内就職者は「地元への愛着」や「生活のしやすさ」を就職先の選択理由に挙げており、県外就職者は「仕事でもプライベートでも豊かな経験をしたい」というものが挙げられていた。また県内就職者の特徴として「実習体験が就職先決定に影響した」や「同窓の先輩が多く就職している医療機関であると安心」ということが挙げており、逆に県外就職者は「実習を体験して働きたい病院がなかった」ということが挙げられた。テキストマイニングにおいても、抽出した語について共起ネットワークで分析したところ、相談者は「先生」や「先輩」、「家族」が多く、内容分析と同様の結果であった。

【考察】

実習体験は就職先決定に直接影響を与えるものであり、より良い体験は就職につながりやすく、目指す看護の実現の可能性が見いだせない他県への就職に流れることが分かった。学生が県内就職することによって自己実現が可能だと考えられるだけの実習体験できるよう、大学と実習フィールドが連携する方法を工夫することは急務である。県内就職の同窓生との縦の繋がりを付けるということを含めて、2022年度から開講されたキャリアデザインの時間を活用できないか模索していきたい。

地元への愛着を醸成することが就職につながる条件となることも明らかになったことから、新型コロナウイルス感染症状況を見ながらではあるが、大学入学時から地域と連動した企画、たとえば市町村、あるいは中山間地等に立地する民間医療施設などとのコラボレーションで現地体験型のイベント等を開催し、地域の方とのつながりを育む取り組みを実施することが地元定着に有効であると考えられる。

さらに、県外での豊かな体験を卒後に求めるのではなく、大学生活の中で行えるような仕組みを作るなど、地方の看護学生が地元に着定するためのキャリア支援の在り方について示唆を得ることができた。

【研究発表】

(1) 雑誌論文

なし

(2) 学会発表

研究 1

1. 岡崎実子、大野理恵、川村道子、中村千穂子、壹岐さより、田中美智子、社会人基礎力育成を目指したキャリア形成支援－アサーション講座を受講した学生の様相－. 日本看護科学学会第 40 回学術集会, 2020. (査読有)

2. 大野理恵、岡崎実子、川村道子、中村千穂子、壹岐さより、田中美智子、社会人基礎力育成を目指した学生支援－アサーションやヨガ講座を受講した学生の様相－. 日本看護科学学会第 42 回学術集会, 2022. (査読有)

研究 2

川村道子、中村千穂子、壹岐さより、田中美智子：地方に立地する看護大学生の卒後地域定着のためのキャリア支援に関する基礎研究～就職選択に影響を及ぼす要因の分析～. 日本看護科学学会第42回学術集会, 2022. (査読有)

(3) 図書

なし

(4) その他（産業財産権の出願・取得状況や(1)～(3)に当たらない研究発表など）

なし